

「一即多・多即一」

長光寺住職 福島伸悦

今、ラグビーワールドカップが日本で開催されています。日本チームは予選で4戦4勝をして、決勝リーグで南アフリカと戦い、負けはしたもののベスト8という素晴らしい結果に終わりました。「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」のラグビーの精神は、多くの人に感動を与えました。「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」と訳されるそうですが、一つの目的、つまりゴール(トライ)のために全員が役割をしっかりと果たすのが重要だ、ということなのです。「見返りを求めず、だれかのために無心で頑張る」という姿が、試合の中でひしひしと感じられました。献身的なそれぞれの選手の戦う姿を見て、ファンになった方も多いのではないのでしょうか。テレビで解説されていた五郎丸選手が次のようなことを言っておられました。「ラグビーが他のスポーツと大きく異なる点は、とにかくいろいろなタイプの選手がいることです。背が高い選手、低い選手、痩せている選手、太っている選手など、体格の異なる1チーム15人が一つのフィールドで共存する。」

この言葉は、私達が住んでいる社会の縮図を表しているように思えます。華嚴経という仏教経典に出てくる「一即多・多即一」ということばがあります。「一」に自分自身を置くことができます。すると、この自分のなかに社会のみならず、全世界の一切、果ては大宇宙が含み込まれていることがわかります。私の身の回りで起きている事は、決して他人事などではなく、実は自分自身にも関わることだということです。つまり、自分一人で生きているのではなく、家族、隣人、友人、そして自然界全てのかかわりの中で生きているという事です。